

女川湾における津波による 藻場の被害状況

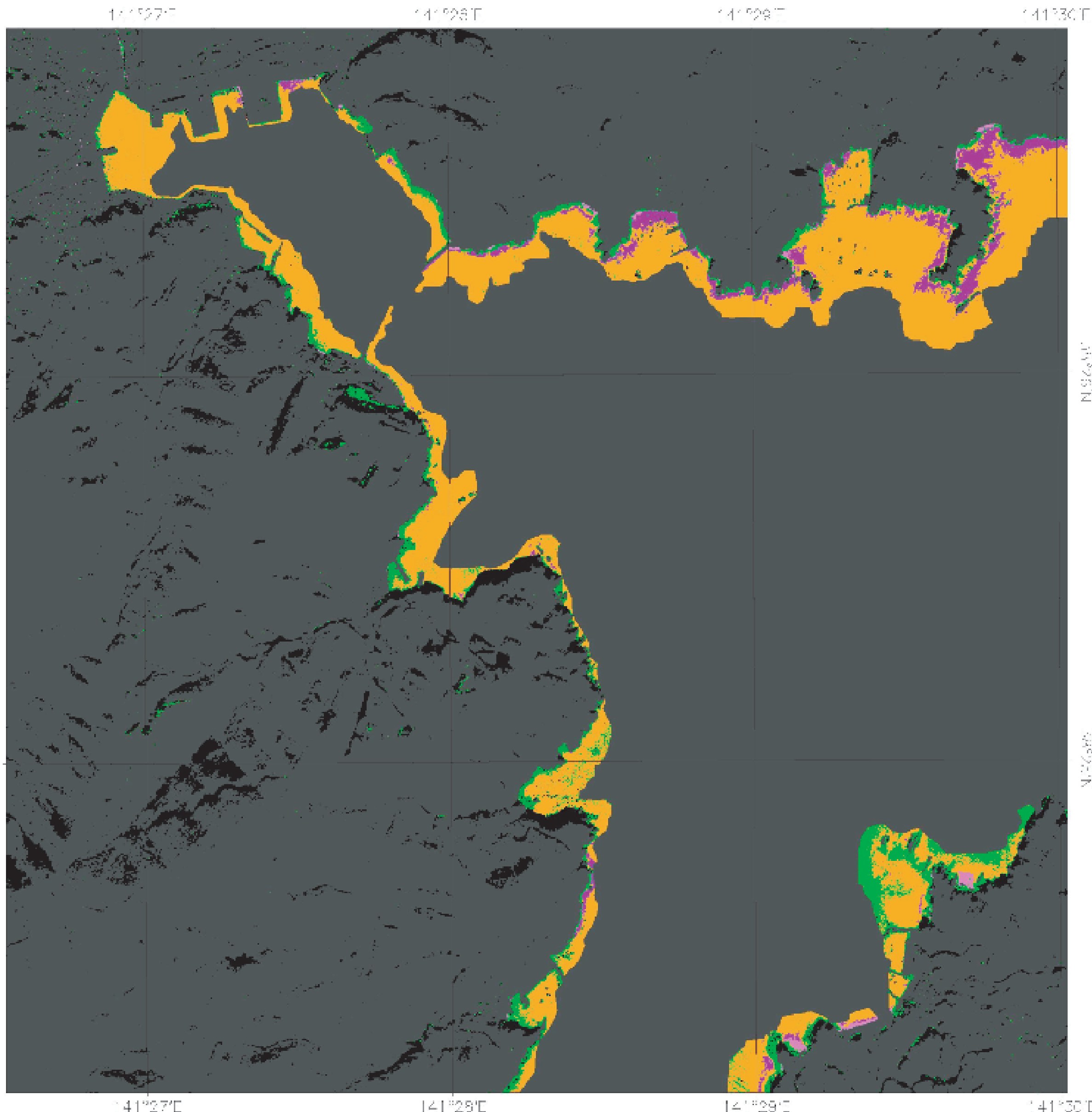
(財) 環日本海環境協力センター
 東京大学 大気海洋研究所
 東北マリンサイエンス拠点形成事業(東北大学)



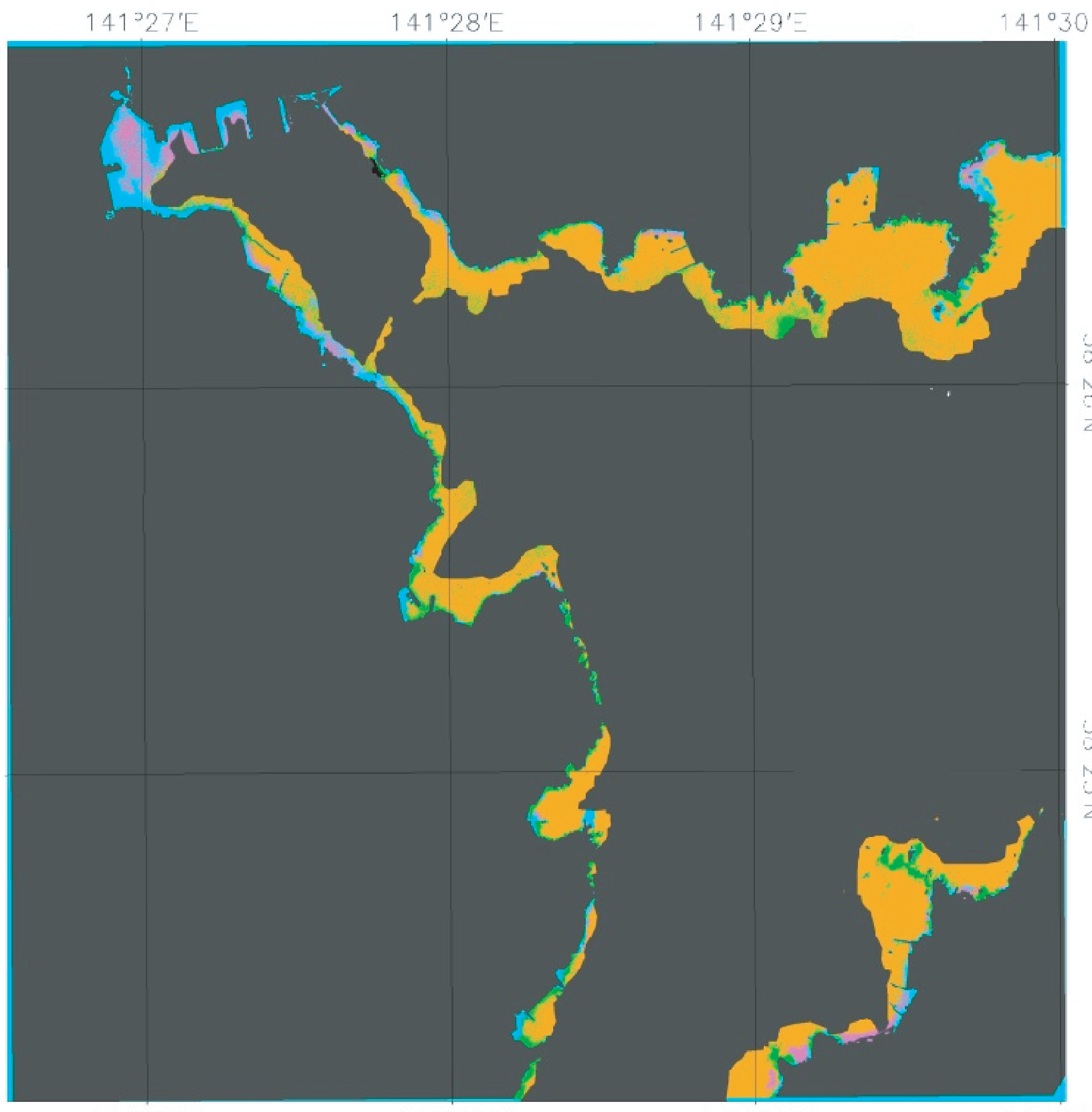
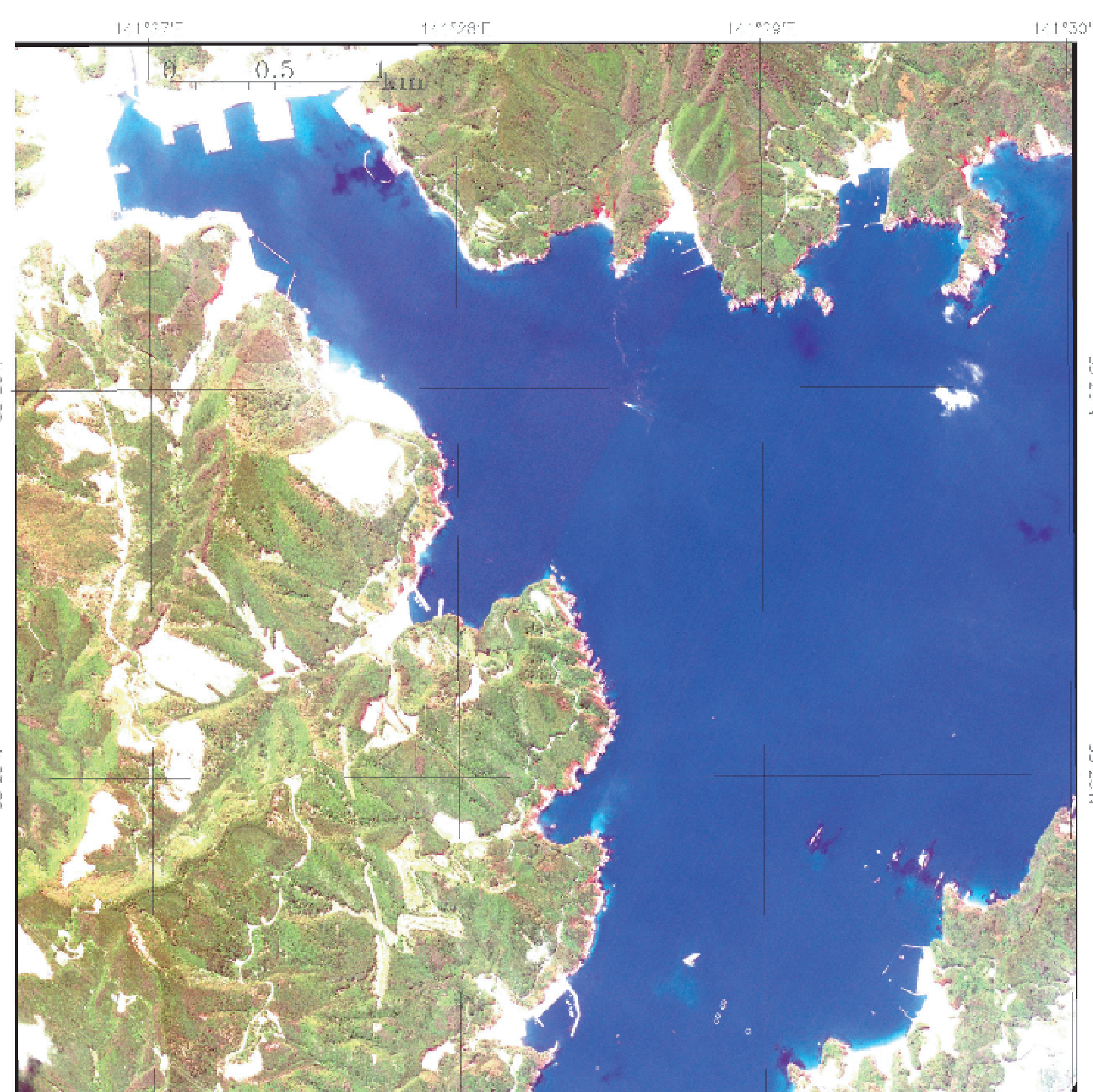
万石浦は、湾口幅2.5 km、面積12.1 km²、湾内最大水深36 mの内湾であり、湾北岸の弁天島周辺等の湾を巡る海食壁の景観や沖合いに浮かぶ江島列島に代表される島嶼の景観を誇り、南三陸金華山国定公園に指定されています。

2011年3月11日に起きた東日本大震災と津波によって、女川湾の藻場がどのように変化したかを明らかにするために、湾奥部を中心に震災前後の人工衛星画像を解析しました。

震災前2009年11月4日



震災後2011年6月4日



■ 藻場
 ■ 岩礁
 ■ 磯焼け
 ■ 砂地
 ■ 濁水
 ■ 陸及び10m以深の海底
 ■ 影

女川湾における震災前の2009年11月4日の画像において、湾北岸において磯焼けと思われる岩礁が確認されました。震災後の2011年6月4日の画像では、特に湾奥部において藻場の判別が困難な状況でしたが、震災前の画像において磯焼けが疑われた場所において、海藻の繁茂がみとめられました。女川湾の底質がそのほとんどが岩礁であることから、志津川湾や松島湾において確認されているようなアマモ場の消失も認められず、津波による藻場への影響は比較的小さかったと推測されます。